

香取遺産

vol.159

上中宿区 山車保存修理

佐原の山車行事は、国の重要無形民俗文化財、ユネスコ無形文化遺産として、今や世界に知られる伝統行事となりました。25台ある佐原の山車のなかでも、上中宿区の山車は嘉永5(1852)年の建造と伝わる古いものです。その姿は、黒漆・透漆・朱漆を塗り分け、御簾の額縁などに螺鈿を施し、華麗に仕上げられています。57枚ある彫刻は、山車全体で源頼朝の富士の巻狩りの一場面を表す趣向になっており、山車正面上部に掲げる扁額も富士山の彫刻です。彫刻・扁額は嘉永4(1851)年の完成と伝えられています。

保存修理計画は、学識経験者からなる佐原山車行事伝承保存会評議委員会の審議の後、平成29年度から「国宝重要文化財等保存・活用事業費」の国庫補助金を受け実施することになりました。実に、建造から165年を経て、初めての大規模保存修理です。計画は部材の再利用という文化財保存修理の基本に沿って行いました。新規材の使用は、腐朽などにより再利用のできない部位に限り、漆は下地から

の塗り直しです。作業は平成29年10月の例祭後に着手しました。平成30年は祭礼参加を見送り、3年に一度となる令和元年の本祭に間に合うよう作業を進め、9月には山車の最終組み上げを行い完了しました。

今月の新宿諏訪神社本祭では、修理を終えた山車が曳き廻され、山車の老朽化で久しく行われなかった「のの字廻し」も披露されます。1年休止してでも、嘉永5年建造の山車で、行事を伝承する決断をした上中宿区の強い思いが、皆さんにも伝わることでしょう。

固 生涯学習課 ☎(50)1224



保存修理後の上中宿区の山車(飾りつけ前)